

<b>〔科目名〕</b> 健康と医療	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 教養科目
<b>〔担当者〕</b> 長岡朋人	<b>〔オフィス・アワー〕</b> 時間:12:20～12:50(要予約) 場所:1202 研究室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> 1. 講義の内容 本講義は、人体の構造と機能の学習を通して、健康と医療に関するリテラシーを涵養することを目的とします。人体と構造と機能は医学・医療の基礎となります。近年の医学・医療は急激に発展しており、社会との関わりが密になっています。本講義は、細胞や遺伝子の講義から始まり、人体そのもののマクロ的な視点を涵養し、ときには症例をまじえながら、基礎医学と臨床医学の橋渡しとなる講義を目指します。講義は、消化器系、呼吸器系、循環器系、泌尿器系、神経系、内分泌系、運動器系、生殖器系の講義を行います。 2. 講義の特色 医学・医療系の講義は膨大な用語を正しく理解する必要があります。語学と同様に手間と時間をかけなければ医学の「言葉」は理解できません。講義資料には欧文(英語、ラテン語)を含む場合があります。本講義は暗記を目的としていませんが、理解するためには反復学習が必要です。全講義に出席しなければ試験には対応できませんので全講義に出席できる学生の受講を希望します。		
<b>〔授業科目群・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 1. 批判的思考 私たちは医療に密接にかかわる場面で生活しています。医療の知識は常に進歩していき、当たり前だと思った知識も色褪せていきます。身近にある当たり前の事柄に疑いを持ち(病院における診断も必ずしも正しいとは限りません)、情報を取捨選択するための基礎知識を涵養します。 2. 専門分野との学際的接点 本科目と経営経済学との学際的接点(たとえば感染症と経営経済学は密接に関わります)により、学生の知的好奇心を高めることができると確信しています。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 1. 最終目標 (1)書籍やインターネットの情報を検索・取捨選択し正しく引用できること、(2)自分の言葉で情報を整理し意見を述べるができること、(3)医学・医療に対する批判的思考を身につけることです。 2. 中間目標 膨大な情報量を持つ学問領域を知ること、健康や医療のリテラシーを身につけることです。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 不真面目な学生が周りの学生に迷惑をかけているという点について、この点は教員から学生に注意すべきことかと受け止めています。大学生にもなってこのような注意をするのは考えてしまいますが、きちんと指導を受けなければ理解できない学生がいるので、教育的な配慮として学生には諭します。 講義中の課題シートの評価が甘いというコメントについては前回の講義時間中に改善済みです。		
<b>〔教科書〕</b> 配布資料		
<b>〔指定図書〕</b> 「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)、「バイオエシックス入門」(今井道夫・香川知晶、東信堂、1995年)		
<b>〔参考書〕</b> なし		
<b>〔前提科目〕</b> なし		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 試験、講義時の課題への取り組み(課題シート)、レポート。課題シートは講義を踏まえて書くものであるため後日提出は認めません。		

<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b>  Aは80点以上、Bは70～79点、Cは60～69点、Dは50～59点、Eは49点以下と評価します。<u>全講義回数</u>の3分の1(講義回数が15回では5回)の欠席者(欠席届提出分は除く)はF評価とします。3回の欠席者は成績評価を1段階下げます。救済措置は一切行いません。また、試験の無断欠席者、レポートの未提出者は原則としてF評価とします。欠席届は事務局で認めた場合のみ受け取りますが、それ以外の欠席は例外なく欠席としてカウントします。教員に欠席のメール連絡は正式な手続きではありません。講義開始後30分経過後の入室は欠席扱いします。課題シートは成績評価に用いる小テストという位置づけにしているため他人の課題シートの書き写しは厳禁です(発覚した場合はF評価とします)。課題シートは教員の指示に従って提出してください。  成績評価は、課題シート、レポート、試験で行います。<u>回収した課題シート、レポート試験は返却しません</u>。提出物は指示通りに出してください(ホチキス止めをしていない提出物や提出の期日や場所を守らない提出物は受け取りません)。試験は講義を踏まえた選択問題及び記述問題を出しますが理解度を試す試験であるため事前に問題の開示は行いません。</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b>  1. 受講の姿勢  (1)講義の目的は暗記ではありません。健康と医療に関するトピックをもとに、当たり前と思っていた事柄に対して批判的な思考を身につけましょう。(2)医学・医療に関わる膨大な情報量を理解するために、講義では常にノートでメモを取る必要があります。講義への積極的な参加を希望します。講義の難易度は高校の理科よりも難しいレベルであり、復習が欠かせません。漠然と講義を受けるだけでは理解できないため、講義を受講しながらメモを取る癖をつけましょう。  2. 学生への要望  (1)遅刻・欠席は控えてください(すべての講義に出席できる方が受講してください)。(2)講義で分からないことは質問してください。(3)受動的な姿勢で受講しないでください。講義中の私語や携帯電話の利用は禁じます。(4)マスクや手指消毒を行い感染対策に努めてください。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b>  該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):イントロダクション  内 容:本講義の目的、内容、評価方法について理解を深める。  教科書・指定図書 なし</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):医の倫理  内 容:生命倫理に関する講義です。生命倫理が誕生した背景、医学研究をめぐる倫理指針(ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言)、インフォームドコンセント、臓器移植や再生医療をめぐる倫理的問題について理解します。  教科書・指定図書「バイオエシックス入門」(今井道夫・香川知晶、東信堂、1995年)</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):人類と感染症の歴史  内 容:人類と感染症の歴史について理解を深める。  教科書・指定図書 なし</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):医史学  内 容:病気と治療の歴史について理解を深める。  教科書・指定図書 なし</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):医史学  内 容:病気と治療の歴史について理解を深める。  教科書・指定図書 なし</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):地域医療  内 容:青森の医療の現状と課題について理解を深める。  教科書・指定図書:なし</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):解剖生理学を学ぶための基礎知識</p> <p>内 容:人体の構造と区分、人体の部位と器官、方向を示す用語について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):呼吸器系</p> <p>内 容:呼吸器の構成、肺の構造と機能、呼吸器系の病態生理について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):消化器系</p> <p>内 容:口、咽頭、食道、腹部消化管の構造と機能について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):内分泌系・生殖器系</p> <p>内 容:口、咽頭、食道、腹部消化管の構造と機能について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):循環器系</p> <p>内 容:心臓の構造と機能について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):循環器系</p> <p>内 容:末梢循環器系の構造と機能、リンパ管系について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):神経系</p> <p>内 容:中枢神経の構造と機能について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):神経系</p> <p>内 容:末梢神経の構造と機能について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):まとめ</p> <p>内 容:これまでの講義で重要なポイントを整理する。</p> <p>教科書・指定図書:なし</p>
試験	<p>期末試験</p>